

オンフット進学会に学べ!

SEMINAR セミナーレポート REPORT



オンフット進学会(千葉県柏市)
代表 **星野 勝弘** さん
プロフィール
県立東葛飾高校、明治大学法学部卒業。塾講師経験は30年以上。2007年にオンフット進学会を開塾。塾名「オンフット」はラグビー用語に由来し、「将来を自分の力で立って歩いてゆける力を子どもたちに身につけさせたい」という思いを込めている。英語や現代文を中心に指導。NPO塾全協全国常任理事・東日本研修局長・千葉地区担当。

公立生向けの中高一貫型指導という新しいコンセプトを展開 —昨年教室を拡張し、環境面でもさらなる充実を図る

公立志向が強い千葉県柏市。オンフット進学会の代表・星野勝弘さんは、中学生のうちから大学入試を見据えた指導を行うため、2007(平成19)年、「中高一貫」をコンセプトにしたオンフット進学会を開いた。また、近年は読解力をつけるための国語力にも注目し、小学生向けに新しい講座「論理国語」を開講。専用自習室や無料ドリンクバーにコピー機など施設面でも定評があり、2021(令和3)年には教室を拡張、さらに学習環境を充実させた。

公立志向が強い地域の 特性を生かした中高一貫型

「千葉県北西部にある柏市は東京に隣接しているのですが、私立志向はあまり強くなく地元公立中学に進んだ生徒の約9割が公立高校を志望しています」と千葉県柏市の教育事情について教えてくれた星野代表。最上位の公立高校でなくとも、中堅から上位レベルの公立高校に進学できる生徒たちなら、千葉大学や筑波大学といった地元の国立大学やGMARCH、さらには早慶上理クラスの難関大学にも入れる潜在的な力は十分にあるという。

そのような生徒たちの力を引き出すために、私立の中高一貫校と同じような学習環境を提供し、私立高校生と同じ条件で大学入試に挑んでほしいという思いから2007(平成19)年、オンフット進学会を設立した。そのコンセプトは「公立中学から県立上位校へ、そして難関大学へ」。

「公立中学から高校に進学する場合、高校受験対策をしなければならず、それまで続けてきた学習をいったんストップさせなければなりません。公立では学習指導要領の縛りもあり、得意科目があっても中学校で高校の分野を教えてもらうことはできません。そこで私たちは、公立の生徒にも私立の

中高一貫校と同じような学習環境を用意し、ハンデのない状態で大学入試に臨めるようにと指導しています。高校の先取り学習には生徒たちも興味をもって臨み、かえって理解が深まることもあるという。指



JR北柏駅北口から徒歩1分とアクセス抜群な場所にある。2021年11月にビル1階の2店舗分から3店舗分へ拡張。看板の色はオレンジ。3店舗分の看板が抜群の存在感をアピールしている

導にあたるのは大学入試の指導スキルをもつ5名の専任講師で、中学から高校まで同じ講師陣が一貫して指導する。また講師同士が密に連絡を取り、一人ひとりの生徒の情報を共有。生徒自身も早い時期から大学受験を意識するようになるという。

●運営のポイント

地域の特性を生かしたコンセプトを展開。中高一貫型指導というほかに類を見ない特徴を前面に押し出す。

小学生から読解力を養うため 「論理国語」講座を開講

NPO法人学習塾全国連合協議会で東日本研修局長を務める星野代表は、2018(平成30)年、全国研修大会で出口汪(ひろし)氏を講師として招いた。出口氏は論理力を養成する「論理エンジン」を開発した「論理国語」の第一人者だ。この出会いをきっかけに小学生のクラスで出口氏の「論理国語」を開講することになる。「ここ数年、生徒たちの読解力を養う必要があると考えていました。たとえば私は英語の授業を担当しているのですが、中学生に高校レベルの授業をすることにより、中学の段階で英検2級や準2級を



清潔さにもこだわるオンフット進学会。机は清潔さがひと目でわかるよう、天面はあえてホワイトで統一しているのも特徴

取得する生徒も多くなりました。ただ、近年高校入試でも英語の問題が長文化し、全体を早く正確に読み通す力が求められるようになってきました。理科や社会の問題も長文化しており、問題文を理解できず、要するに何が問われているのかが分からないという生徒も増えています。読解力をつけるためには、小学生のうちからしっかりと意識して取り組むことが大切だと考えていました。ちょうどその頃出口先生が小学生向けの『論理国語』の教材を出されたという話を聞き、NPO塾全協の研修大会の講師にお招きしました。その後、出口先生の新しい教材を実際に使って体験会を行ったところ、子どもたちにも保護者からも高評価を得ました。それで5年前から小学生向けに『論理国語』の講座を設けました。

宿題には「朝日小学生新聞」の『天声子ども語』も使用。保護者からは読解力や語彙力がつくだけでなく「時事問題にも関心をもつようになった」と好評だ。国語力はすべての教科の源。「論理国語」は同塾の新たな強みとなっている。

●指導のポイント

中高一貫して同じ講師が指導。さらに小学生向けに新しい講座「論理国語」を開講。



生徒に人気の専用自習室はすべて個別ブース形式。私語は一切厳禁とし、常に静かな環境を保っている

教室を拡張。専用の自習室や 無料コピー機など環境面も◎

コロナ禍で学校が休校していた頃は、新規募集もかけることができず生徒数が伸び悩んだ時期もあったという。

しかし、新型コロナウイルスが5類に移行されてからは生徒数も順調に回復しました。2023年7月現在、高校生が約50名、中学生が約80名、小学生が約20名の計150名が通塾しています。

もとより良い学習環境を提供するため、教室は2年に一度はリニューアルしてきたが、2021(令和3)年11月には教室を5教室から7教室に拡張した。

「コロナ禍で席の間隔をあけるため教室が足りなくなり、その時ビルのオーナーから同じ建物内で

の拡張を提案されました。現在は7教室+専用自習室。1教室は最大16名までで、スペースにゆとりをもって運営ができるようになりました。この拡張は新たな生徒の増加にもつながった。自習室に併設の専用ロッカー、無料のドリンクバーやコピー機などの設備が充実しており、清潔な環境を維持することも怠らない。

授業料は高校生の3科目受講でも月額2万5000円(税込)で受講可能。予備校などに比べればかなりリーズナブルな設定だ。この価格で設備など学習環境に還元している。また、経営は顧問税理士に一任し、星野代表をはじめ講師陣は指導に専念できる環境も確立している。

最後にオンフット進学会が目指すものを聞いてみた。

「今通って来ている生徒たちの満足度をあげ、生徒たちの夢をサポートしていきたいですね。塾の名前でもある『オンフット』の言葉通り、『自分の力で立って歩いてゆける生徒』を育てていきたいと思っています」。

●経営のポイント

経営面は顧問税理士に一任。拡張で新規生徒も増加。授業料は自習室など環境面で生徒に還元。